

女子大学生の、異性との恋愛と友情の価値観について

○山内裕斗*・#福本彩水**

(* 岡山大学大学院 社会文化科学研究科・** 山口大学 教育学部)

問題

これまで男女の恋愛や交友関係などについての研究は数多くなされているが、これらは非常に多様な個人の価値観が関わってくるのが考えられる。本研究では、女子大学生・大学院生を対象に、「異性との恋愛と友情に対する価値観」について質的に検討することを目的とする。

方法

2020年12月～2021年2月の期間において、女子大学生・大学院生11名（学部2年2名、3年3名、4年2名、修士1年4名）に、オンラインにて半構造化のインタビュー調査を行った。倫理的配慮として、「研究実施計画」「研究に参加することによる利益、不利益、危険性」「プライバシーおよび個人情報の保護」「同意及びその撤回」の4点について説明を行い、同意書への記入により、調査への同意とした。質問は、「家族構成」「仲の良い友人の性別」「男女の友情が成立すると思うか、また、その理由」「恋愛と友情の違い」「恋愛観や人間関係に対する価値観の変化」「結婚願望とその理由」について尋ね、回答に応じて、具体的なエピソードや、男女の二人で行う活動について許容するかどうか、などの質問を加えた。調査の時間は、最長70分、

最短10分、平均約40分であった。

結果と考察

分析にはM-GTAを用いた。インタビュー内容に基づき概念化すると、29の概念、11のサブカテゴリ、4のカテゴリが得られた（Figure1）。友達・恋人の移行として、直感や自身の自己肯定感の程度など個人での要因に加え、相手の反応や相手との関係性の変化など、自分以外の要因も、移行の一因になっていることが示された。また、異性の友達との接し方では、本人の恋人の有無に関わらず、行動面や生理的な面で許容するかなど、自分の中の基準に従うこともあれば、周りからどう思われるかを気にしたり、恋人がいる場合、相手はどう思うのか、などのことを考えながら自身の行動を決定しているということが示された。さらにその背後には、自分が育った環境や、学校・大学での人間関係、周りの人の様子や聞いた話、などの要因も絡み合っており、異性の友達との関わり方や恋愛に関する価値観が形成されるということが考えられた。

本研究では対象が女性であったが、今後は男性を対象として、恋愛と友情の価値観の形成を女性と比べることも必要であろう。

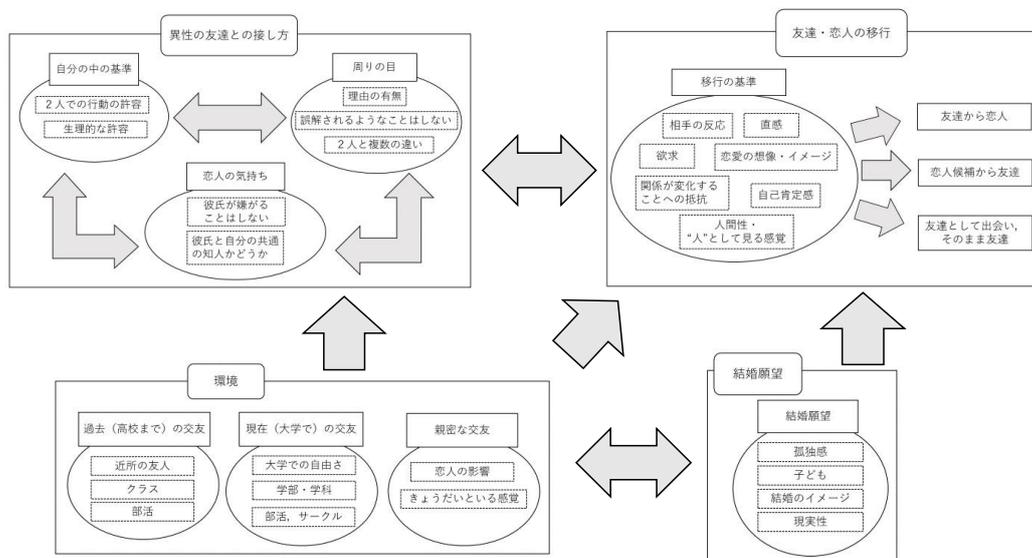


Figure1 異性との恋愛と友情の価値観についての形成要因